

SPIT'EM OUT! "it's absolutely raw"

- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -



Special Interview DJ HAZIME, DJ MISSIE & DJ TAIKI

毎回楽しく遊べる“真夜中の王国”を築き上げたNO DOUBT CREWが3人揃って登場。最近のNO DOUBTからそれぞれ楽曲を提供している“HARLEM ver.1.0” (NOW ON SALE!) の事など、なかなか聞く機会のないDJ達の言葉のメッセージ。だけども本当のメッセージはNO DOUBTの中にあり!

●“HARLEM ver.1.0”に提供している楽曲について、またこのアルバム自体についての感想は?
DJ HAZIME (以下、H) : オレの曲は聴いたままのままで。クラブでかけた楽しそうだし、クラブで聴いたら一番いいんじゃないかって作ったらあいう曲になりました。
DJ TAIKI (以下、T) : このアルバムってエンジニアもバラバラだし、録音している所も違うし、ある意味ホントにバラエティに富んでいいんじゃないのって感じ。あんまりこういうコンピレーションって出ないと思うんだよね。結局どこか一箇所のスタジオだったし、スタジオが違ってもある程度共通するエンジニアだったって言うのはあるかも知れないけど、ホントにバラバラだから、個々の曲の色とかもすごく強く出てくるだろうしね。
DJ MISSIE (以下、M) : このアルバムはいい!!
H : 後は買う人が何を求めているかだね。HARLEMのイメージはこの5年間で定着しているけど、そのHARLEMのDJの人達が作ったトラックだから買って言う人もあるだろうし、ただ単にこのラッパーが好きだから買おうって言う人もあるだろうし、いろんなタイプの人がいるだろうね。HARLEMを知らない人がこのアルバムを先に聴くって場合もあるだろうしね。
T : 実際18歳以上じゃないとHARLEMには入れないけど、これは14、5歳でも買える訳じゃん。でも間違えて欲しいのはこれを聴いて、これがHARLEMなんだとは思われないよ。クラブと作品はまた別物だからさ。
H : あ、でもオレは結構直結させちゃうタイプなんだよね。オレはいつもクラブでかけたらいないって言うのを念頭においてトラックを作るから。これを聴いてクラブにもっと人が増えればいいかなって思ってる。これ聴いて、HAZIMEってこういうトラック作ってるんだ、DJ聴いた事ないけどおもしろそうだから行ってみようって言う風に還元されればいいかな。例えばMISSIEのスクラッチ聴いてさ、これを生で見たっていう人もあるかも知れないし、TAIKI君のトラック聴いてTAIKI君のクラブプレイ聴いてみたいって思う人もあるだろうし、そう思うてくれればいいのかな。オレは発売された後の方が楽しみ。CLUB HARLEMのちょっとした変化っていうのが楽しみたい。
T : そうだね。このアルバムがCD屋にズラッと並んでたら、「HARLEM」っていう名前がより宣伝される訳だからね。でもオレはクラブと作品は別かな。クラブはクラブでの楽しさがあると思うし、CDはCD、作品は作品の楽しさがあると思うから、興味持ってきて来てくれるのがうれしいし、それでクラブDJとしてやってる事を見てもらえればいいと思うから。
H : 少なくともHARLEMに来てお客さんには買って欲しいよね。変な捉え方をしないで欲しいのは、MIX CDではない、全員が全員このアルバムを聴いてパーティもと直結する訳ではないという事。そのHARLEMという看板だけで判断して欲しいし、楽曲としてクオリティの高いものが揃っているからそれをパーティMIXみたいなコーナーに並べないでねって感じ。
T : 作品を通してHARLEMに興味を持ってもらえれば新しい人も増えていくもんね。
●MISSIEの曲は、日本語ラップをスクラッチでつなぐという今までにはない斬新な試みだった訳ですが、作り終えての感想は?
M : NORYを引っ張りだそうかって思って考えたんだけど、結構イメージ通りにそのまま出来たかな。リリックをよ〜く聴いて下さい。
●制作にはどのくらい時間が掛かったのですか?
M : 他の事もやってたけど、どれ位だろうな...でも1ヶ月位かな。
●最近特に雰囲気の良いNO DOUBTですが、それぞれ意識している事はありますか? また、お互いに雰囲気を作るために話し合ったりするのはですか?
H : 事前にそういう話しはしないけど、TAIKI君こう思うてな〜とか、オレもこうしたいなって思っている事は、ちょっとずつ変えていくようにしているんだけど、TAIKI君はどお?
T : うんそうだね。みんなそれぞれずっと何年もDJしてるし、イメージでDJしている人達ではない訳じゃん。客を前にして何年もやっているから、その辺は自分たちの感覚でやっても大丈夫だし、変にセットを組んでこなくともいいし、その方がお客さんにも合わせられるし、もちろん組むところは組んで、二や三つ笑いながらやったりとか、そういうものもお客さんを見て臨機応変に出来る人達だからね。
H : TAIKI君もオレもかかる曲が違ったり、スクラッチの仕方が違ったり、つなぎが違ったりとか色々あるけど、最終的な目標って言うのはお客さんを喜ばせるっていう事だけだから。目標は一緒なんだからそれに向かって各自の手法が違っただけで別にそんなに難しく考えてないね。
M : オレも全く一緒です。オレは比較的早い時間をやる事が多いんだけど、早い時間は準備運動だと思ってくれればいかな。酒飲みながら踊らなくてもいいから首振ってるって感じ。まずは柔軟かな。何となくそうい

イメージでやってるつもりです。
T : でもね、新譜もかかるし、みんなが知っている盛り上がる曲もかかるし、不意に変わってREGGAEもかかるし、一晩で考えてずっと同じ感じじゃないから、早い時間から来ている人も面白いと思うよ。時間の流れを追って音楽も雰囲気も変わってくると思うし。
M : 早い時間も早い時間で面白いんですよ。お客さんとの駆け引きがあって。これかけたらどうかな、これかけると、あー引くんだとか、これかけると、あ、戻ってきたとか。
H : それはオレもTAIKI君もこの時間帯でも一緒です。あえて真ん中に出たばかりの新譜とかかけてさ。
T : そう、誰も知らないヤツをね。
H : 今日買ったばかりじゃって言うのも普通にかけたりするしさ。“HAZIMEそれ今日買ったばかりじゃなよ”って言うのをド真ん中にかけたり。でも新しい曲をこっから発信するのもDJの大事な仕事だから、人が沢山いる中でドカンとかけて、“わかってる、知らないのはわかってるよ、でもこの3分ちょっと聴いてくれよ”って(笑)。でもそれをかけても客が引かないように出来るからそれがかけられる訳よ。ダメなのはわかってる、でもその後はうまく盛り上げるからさーっていう感じ。
T : でもね、そういう曲って今はただ知らないっていうだけで、2ヶ月後にちゃんとフロアでウケる曲になったりするんだよね。でもそうやって耳馴染ませるのもDJの仕事だと思ふよ。
H : あとさ、最近ホントに凄く女子が増えたと思いませんか?
T : 土曜日ね、おかしきよよよ(笑)。この前オレびっくりしたのが、中2階で7割か8割女子しかいなかった。それって今までHIP HOPのクラブではそんな経験なかった事だからね。
M : 良いことじゃないですか〜。女の子が増えたのは何でだろう? いいなあ〜...もって増えたらいいね、女の子。そしたら男も付いて来るからね。
H : 女の子が多いって事は雰囲気もいいって事と直結してると思うんだよね。ちゃんと普通の子がいて、フロアで踊っててくれて、そういう感じだから。
T : HARLEMが作っている雰囲気の良いさっていうのもあるんだよね。他のクラブはあんまり見に行かないからHIP HOPのクラブ全体がそうなるって訳ではないのかもしれないけど、HARLEM見ると雰囲気はホントにいいんじゃないかなって思ってます。
M : 壁が赤いっていうのがいいよね。オレ、早い時間からやっていって最後まで居るから、DJの中ではTAKKYが一番長く居るから二番目に長く居る訳だけど、ずっとクラブの中の雰囲気とか見ても結構面白いからやっぱ土曜日楽しいんだよね。だからDJやってても楽しいし、だからずっと居るんだと思う。
T : クラブってお酒もあって雰囲気も良くって友達もいてワイワイ騒いで音楽もあって、そこでHIP HOPを聴いたりするいう好きな音楽を聴くっていうのが一番楽しめる場所だから、そういう部分をみんなにもわかってもらいたいっていうのもある。例えばあんまり来たことがないけど来てみました、来てみてすごい楽しかったってリピーターが増えれば、そういうのがある意味仕事なのかなって気がするし、自分たちが楽しんでいる事をわかってもらえるような事をするっていうのがDJとしての仕事かなと。
H : 最近ではブースの中の雰囲気作りは前に比べたらもっと自覚してるよ。マイク持ったりとか、やっぱりDJブースを見て踊る人がまだ多い訳じゃん。オレとかTOSHI(C.T)とか誰かが居るブースの中でワイワイやってたら、それを見て「この人達バカで楽しそうだな」と見て見た方が楽しいハズだし。自分がやらなかった時のブースの中のいい空気を作る事は自分半年位は気にかかっている。
●以前と比べると今が一番いい状態ですか?
H : 一番いい状態っていうのは一生ないと思う。
T : どんどん変わっていくんじゃないか? その時々の雰囲気とか音楽の流れもあるだろうし、でもその状況の中で、今ベストなものを作りましようって感じ。
M : 土曜日チームで言えばSAFARIもTOSHI(C.T)もがんばっているし。
H : もっといい事が来月あるかも知れないし、来年はもっともといいかも知れない。だから今の段階が一番とはいかないな。だったら毎回1000人パンパンに入って、女の子が900人位居るっていうそういうクラブだったらいいな(笑)。
T : それって違うクラブだと思ふよ(笑)。
●お互いのプレイについて意識しますか?
H : 意識していない訳ではないよ。やっぱりTAIKI君は先輩であり、オレとしては超えるべき存在な訳だし。オレは誰かの下でっていうのはあんまり好きじゃないけど、やっぱり年上の人って目標になるから、それをもっと脅かす存在でいたいね。新しい事をやったりとか、上の人達が思いつかない事をオレはやりたいたし、やってるつもりだから。そこは意識してるよ。言うならばローライバルだし。だけどそこで競うようなものではないからさ。オレの方がTAIKI君より盛り上げたからそんなくだらない事はこれっぽっちも思っていないから一晩



の中で今日良かったねっていうのが大事。
T : 年末のイベントじゃないけどさ、一晩通して考えられないとみんな逃げ状態になっちゃう訳じゃん。他の人のDJも職さながら酒とか飲んで、こういう展開だから次は自分はこうしようかっていうのは絶対あることだから、その中でも山も谷も作ったりして。いろいろの流れを作りつつ和む時間があったり、ワープという時間もあって、腰を踊る時間もあったり。
H : 責任感の問題じゃない? 多分、土曜日DJ出来るやつってホントに少数ない訳じゃん。オレはTAIKI君に声をかけられて「やらなさい?」って誘われて、やるって事は責任持ってやらなきゃいけないしさ、もちろん誘ってくれたんだから結果は出さなきゃいけないし。最初はいいと思って声かけたけど、“HAZIME土曜日やらせたらダメだ”ってなったらそこでオレは終わっちゃうから、ダメだって言われないようにとどんでんやっつけていかないとけないし、今は始めた時よりも1週増えて第4土曜日以外やれている訳だから、それはTAIKI君が口では“オマエいいよ”とは言わないけど... 本人目の前にしていうのもない(笑)。
T : いや、すごくいいクラブDJだよ(笑)。
H : 悪くないから今までと変わらずに出来てるし、居心地いい空気も作れているし、終わって最後の曲で締めた時に、今日はどうだったかという会話も出来るし、オレは土曜日NO DOUBTっていうイベントに対して責任をもってDJしているから、もちろんTAIKI君はオープンからだし、MISSIEもずっとやっている訳だから責任もあるし、一晩通して良くするための各自の意識が新しい方向に向かっているからいい雰囲気って事だと思ふよ。
M : 凄いですよ。いい事言うなあと思って。
T&H : (笑)
●土曜日以外のHARLEMのレギュラーイベント(火・金)は気になりますか?
T : 選曲がどうかはDJ各自がやっている事だからどうでもいんだけど、集客はちょっと気になったりとかする。今は週末をやらせてもらってるから、自分の中で錯覚しちゃう所もあるかも知れないじゃん。でも平日に遊びに来る人達って、本当の意味で音楽が好きなんだと思ふよ。そういう人達がどの位来ているのかなとか、そういう動きは意外と気になったりする。正直さ、土曜日だけじゃなくて、平日もパンパンに入っていたらオレも気持ちいい訳じゃん。
H : それは自分が遊びに行くのがね(笑)。
M : それだったらオレ毎日DJやるかな。毎日500人以上だったら毎日DJやりたいかも。
T : 全体的にHIP HOPのクラブに来る人達がどれ位数が増えたのかっていうのは実はそういう所に現れたりとかも知れないしさ。
●NO DOUBTにまだ来た事のないお客さんに対して一言。
M : 土曜は来たことないって人...いるよね、平日によく来るお客さんとかで。
T : 人がいっぱいいるのには理由がある訳で、変な先入観を持たずに自分で少しでも楽しみたいと思う気持ちがあれば楽しめる日だと思ふよ。結構幅広くかけているから絶対楽しめる時間帯はあるよ。
H : NO DOUBTは土曜のHARLEMでしか聴けないから来てね! 楽しいよ。
●地方営業について。
H : その地方によってすごい流行っている曲とかも最近はあるね。HARLEMでは殆ど聴かないけど「オレらこ

レ流行っているんですよ」というのもあるから。そういうカラーが出てくるんだって、そういうその地域独特の色も読みとっていかないとけないよな、地方でやる時は。
M : 土地土地によって違うね。
T : それはその土地土地の子達ががんばっているんだよね。地元の子達が凄くがんばってそういうものを作っているって事だから。そういうのは凄く大切だし、凄く良い事だと思ふよ。凄く良い事だと思ふよ。
H : 東京からDJを呼ばなくてもいいようになればそれがベストなんだよね。ホントは、日本全国HIP HOPシーンのくくりの元で語るのならばそれが一番ベスト。
M : その地域に凄くDJがいたりとか。
H : そう。逆に地方から東京に来るぐらいの事がもうそろそろ生まれてきてもいいと思ふよ。あのDJ凄くから是非東京でもって欲しいのね。いつまでたっても東京中心だったら、東京にいるオレらにとっってはいい事だけど、果たしてそれが日本全国のHIP HOPシーンに関していいのかわかって。オレはいいとは思わないけど。
T : 東京だって毎晩盛り上がってるって言うたらそうでもないしね。居心地の良さだったり遊びに来ている人も結構いると思う。
H : それはDJ以外で、クラブを営業するにあたって携わっている色んな人が意識しないとけない事だね。あり得ない位DJの事考えてないブースの作りだったりとか、あり得ない位客の事を考えてないお酒のマイズクラブだったりとかさ、いろんな要素があったりするからさ。
T : スタッフだったりね。スタッフ良ければ常連者も増えるもん。
H : そうそう、そういう色んな要素があるから、それがいい状態になっていいクラブが出来れば東京以外でもいい環境をもっと作れると思う。
T : いい雰囲気があればさ、お客さんもいい雰囲気だからまた今度友達連れて遊びに行こうって言うのもあるかも知れないしね。照明もお酒もスタッフも凄く重要な要素なんだよな。でもそれがいいからって、DJはある意味一番最後。
T : DJはそのクラブを盛り上げる1つの要素だから。確かにどこで飲んでいても音は耳に入ってくるから凄く重要な要素なんだよな。でもそれがいいからって、マイズお酒でスタッフも態度が悪くてっていうクラブは行かないじゃん。いろんな要素があってその場の空気だから。そういうものは大切にして欲しいよ。
●最後にメッセージを一言。
M : これからも皆さんを盛り上げるように頑張りたいと思います。頑張ります!
H : 楽しいと思うからまた来てね。
T : 純粋に自分たちが楽しめるものをやっているつもりだから、変に考えないで、クラブで遊びたい、HIP HOPが好きだなんて思ふんだったら一回はちょっと覗いてみてって感じ。そしたら今までNO DOUBTに来たことがない人でも、オレらがやっている事、HARLEMがやっている事を理解してもらえたらと思う。食わず嫌、覗かず嫌って言うのじゃなくて、見てもらえればわかる事をやっていると思うから是非来て下さい。
M : 来ればわかる!